

2026年12月期 第1四半期決算説明会 Q&A

日時：2026年4月30日（木）16:30-17:30

No	項目	Q	A
1	全体	中東情勢に伴うリスクの影響をどうみるか？	売上への直接影響はないと考えているが、調達コストの上昇が懸念される。現状では欠品や生産停止などの直接的な影響は発生していないものの、どのくらい続くのかが見通せないので、影響を算定することが難しい状況にある。
2	全体	中東情勢をうけたサプライヤーからの値上げ要請において、具体的にどの部材・原材料の価格が上がっているのか？	具体的にどの価格が上がっているのかについて、全ては把握しきれていないが、主にシンナー・油脂類を中心として間接的なコストアップ要求を受けている。部品というよりは補助材の値上げが主である。このコストアップも基本的には適切に価格転嫁を進めていく方針。
3	全体	今後のキャッシュアロケーションの方針について教えてほしい。	現状では若干キャッシュリッチの状態だが、中期経営計画中の3年間で見るとキャッシュポジションに大きな変化はない。まずは中期計画で立案した研究開発や設備投資を着実に実行し、成長につなげることを重視している。
4	全体	1QのCMPとACBの営業利益率が高かった要因は何か？	CMPに関しては、1Qにおいて特に日本における操業度増加による稼働益に加え、価格転嫁や経費の発生遅れもあり収益性の改善に繋がった。 ACBに関しては、1Qと4Qの季節性もあるが、海外事業の収益性改善が課題となっていたことに対し、固定費及び経費の削減等により利益率を改善することができた。
5	CMP	精密減速機の受注について。2026年1Qも好調に推移しているように感じるが、今後の精密減速機の受注が更に加速する見通しはあるのか？	今後も力強い受注環境が継続する見立てであるが、下期で期待している北米での自動車向け設備投資の回復の確度が見通せていない部分もある。
6	CMP	精密減速機の2026年1Qの受注実績として、中東情勢悪化をうけた顧客の調達不安による前倒し発注のような動きはなかったか？	1Qでは、昨年末の受注分をさばききったという認識であり、足元の受注についても前倒し発注等は含まれていないと考えている。

7	TRS	1QでのTRSセグメントの受注高が好調に伸びているが、主な要因について教えてほしい。	受注好調の主要因は航空機器事業である。民間向けで一括受注などの影響も入っているが、それを勘案しても航空機器における売上、受注は好調に伸びている状況である。
---	-----	--	---